

子供がマスクをすることのリスク

高炭酸ガス血症

高炭酸ガス血症（こうたんさんがすけっしょう）とは、体の組織でできた二酸化炭素（CO₂）を十分に体外に放出できない状態のこと。

ドイツの研究者は、マスクによる子供達の健康被害を公表しました。
通常の屋外での CO₂ 濃度が 400ppm なのに対し、マスク着用時の吸入空気中の CO₂ 濃度の平均値はドイツ連邦環境局が容認できないとする 2000ppm より 6 倍も高い 13120~13910ppm でした。
「高炭酸ガス血症に起因する障害につながる」と結論付けました。
医学雑誌 JAMA より出典

熱中症・酸素欠乏症

マスク内は外気より 3~4℃高くなります。マスクをすると体温を適切に排出できなくなり、口内の渇きも感じにくくなるため、熱中症を引き起こす危険性が高まります。
また酸素濃度約 18% を下回ると筋力の低下や意識喪失、頭痛、吐き気などの症状が出はじめます。吐いた呼気の酸素濃度は約 15% となり、マスク内の空気を吸い続けることにより酸欠に陥ります。特に脳は酸素の消費量が多いため影響を受けやすく、死亡災害に繋がることもあります。
実際に、2月には大阪で学校の体育の時間にマスクを着けたまま長距離走をした児童が亡くなる事故も起きています。

皮膚疾患

マスクの摩擦などで肌のバリア機能が低下すると、細菌が繁殖しやすくなり炎症が生じます。また、マスクに付着した埃や汗、増殖した雑菌により「接触性皮膚炎」というアレルギー反応を起こすこともあります。



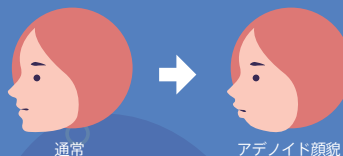
マスクは雑菌の温床

フロリダ大学の質量分析研究教育センターが、子供の着用した 6 つのマスクを分析した結果、肺炎、ジフテリア、髄膜炎の原因となる細菌を含む 11 種類の危険な病原体が付着し、うち 5 つは寄生虫、真菌、バクテリアに汚染されていることがわかりました。そのうちの 1 つは、牛や鹿に致命的な全身性疾患を引き起こす可能性のあるウイルスが検出されました。
雑菌が付着したまま汗と呼吸、唾液で湿り、体温で温められ続けるマスクが呼吸器官である鼻と口に常に付着していることは、様々な疾患の原因となります。

University of Florida Lab Finds Dangerous Pathogens on Children's Masks

口呼吸による障害

鼻呼吸は口呼吸より筋力が必要なので、息苦しいと楽な口呼吸になりがちです。暑い時は体温を逃がす口呼吸せざるを得ず、これにより・鼻というフィルターを通さないためウイルスに感染しやすくなる・むし歯・歯周病・口臭・歯並びの悪化・表情筋衰退・アデノイド顔貌などが引き起こされます。



子どもの精神発達への影響

「子どもは相手の表情を見て、何を考えているのか推測します。さらに乳幼児は、大人が咀嚼する口元を真似て噛んだり飲み込んだりします。保育の現場では今、保育士もマスクをしているため真似ができず、口の中に食べ物を入れたままの乳幼児が増えているといえます」
子ども達は表情の中のたくさんの情報を使い、少しずつ相手の表情、感情というものを理解していきます。マスクによって周囲の人達と信頼関係を構築する社会性の発達に問題が生じる可能性があります。

「子どものからだと心 白書 2020」「速報！コロナ緊急調査」

子どもにマスクが必要ない 3つのポイント

1. マスクでコロナウイルスの感染は防げません

WHO や CDC（米疾病対策センター）、厚生労働省も 2021 年 10 月 29 日までに、新型コロナは空気中に漂うウイルスを含んだエアロゾル（飛沫核）を吸い込むことで起きるとする、すなわち空気感染を認めました。「でも飛沫は防げるでしょ？」という声が聞こえてきそうですが、そのウイルスを含んでいる飛沫は、通常であれば水分の重みですぐに落下するところ、マスクをしているとその内側に付着します。そしてマスクに着いた飛沫の水分が体温により蒸発すると、飛沫核というさらに小さな粒子となり、呼吸によって吸い込まれたり、マスク外に放出されたり、付け外しの際に手で触れることにより逆に接触感染の原因にもなります。また、2020 年 5 月に出された CDC の論文では、インフルエンザウイルス感染を減らすためのフェイスマスクの有効性に関して 10 件以上の RCT（ランダム化比較試験）をメタ解析した結果、ウイルス感染を防ぐ効果がないと結論が出ています。



非医療現場における
パンデミックインフルエンザの
非医薬品対策—個人の保護
および環境対策

2. 子どものコロナでの重症化は極めて稀

2022 年 2 月現在まで、15 才以下の感染者の重症化率は約 0.5%、死者数は 0 人です。一方、インフルエンザは脳症などを引き起こし、毎年 5~10 人の子どもが亡くなっていました。また、RS ウイルス感染症の年齢別の年間死亡率は、1 歳未満 5.4%、1-4 歳 0.9%、5-49 歳 2.6%、50-64 歳 7.8%、65 歳以上 29.6% と推計され、日本では年間 20 人前後、アメリカでは毎年 400 人以上の子どもが亡くなっており、その致死率はインフルエンザより高く 10 倍以上とされています。これらが 2020 年以前に毎年流行してきた過去を振り返っても、私たちは子どもにマスクを常時着用させることはしてきませんでした。さらに JAMA のメタ解析論文によると、無症状から 1 人以上に感染させる確率は、もっとも密とされる家庭内でも 0.7% でした。



-JAMA Network
SARS-CoV-2 の家庭内感染
系統的レビューとメタ分析

3. 感染対策よりも大切なものがあります

子供たちは自由な生活の中で菌やウイルスに触れることで、健全な自然免疫を獲得しながら成長します。マスクの着用、過剰な消毒、活動の自粛などの感染症対策を 3 年ものあいだ徹底した結果、2020 年、RS 感染症の感染者数は前年比 400 倍を超えました。また、過度な感染対策は子どもの免疫発達だけでなく、心と脳の成長も阻害します。学校の長期休業や行事の中止・延期、マスク、ソーシャルディスタンスなどをはじめ、給食は黙食、休み時間のおしゃべりも失われました。子どもを「支える場所」が大きく変化した 2020 年の児童生徒の自殺者数は 499 人で過去最多となり、ブラウン大学等による研究によると、マスクや社会的距離によって子どもの IQ が 23 パーセントも低下し、言語や運動、認知能力、社会的感情など様々な発達に影響を与えていることがわかりました。大人を基準とした過度な感染対策による犠牲者は、紛れもなく子どもたちなのです。



-NEWS ポストセブン
子供のマスク着用の弊害
脳の酸素不足で学習意欲
登校意欲の低下も